

浅間山

○ 11 月の火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

○ 11 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3-②③④、表 1）

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上 100～200m で推移しました。

8 日及び 26 日に実施した火山ガス観測では、山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は一日あたり 40～200 トンと、やや少ない状態が続いています。

・火口内の状況（図 2）

16 日に上空からの観測（陸上自衛隊の協力による）を実施しました。火口内の詳細な状況は噴煙のため確認できませんでした。地表面温度分布¹⁾に特段の変化はなく、高温状態が続いていました。

1) 赤外熱映像装置を用いて観測を行っています。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器で、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図 3-⑤⑥⑦⑧、図 4、表 1）

火山性地震の発生回数はやや少ない状態で経過しました。発生した地震の多くが BL 型地震（波形例は図 6 参照）で、山頂火口直下のごく浅い所で発生したと推定されます。このほか、BH 型地震（波形例は図 6 参照）が発生しており、震源はこれまでと同様に山頂直下の深さ約 1～2 km に分布しました。

火山性微動は 14 回発生しましたが、いずれも振幅が小さく、継続時間の短いものでした。これらの火山性微動も山頂火口直下のごく浅い所で発生したと推定されます。

・地殻変動の状況（図 3-⑨⑩）

山体周辺の GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。このほか、傾斜観測²⁾や光波測距観測³⁾でも火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測される。

3) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。

○ 噴火警報、噴火予報の発表状況（12 月 6 日現在）

気象庁は平成 19 年 12 月 1 日より、噴火警報及び噴火予報の発表と、噴火警戒レベルの運用を開始しました。それに伴い、12 月 1 日に浅間山に以下のような噴火予報を発表しました。

なお、噴火警報、噴火予報と噴火警戒レベルについては気象庁ホームページを参照ください。

・活動状況及び予報警報事項：噴火警戒レベル 1（平常）

火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。浅間山の噴火予報・警報は、噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）です。

※この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、東京大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

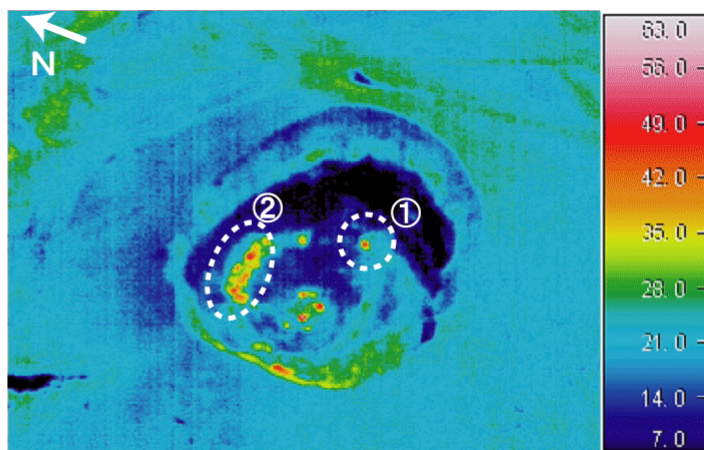
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。



図 1 浅間山 山頂部の噴煙の状況（11 月 17 日、鬼押出し遠望カメラによる）



2007 年 5 月 16 日 西上空から撮影



2007 年 11 月 16 日 西上空から撮影

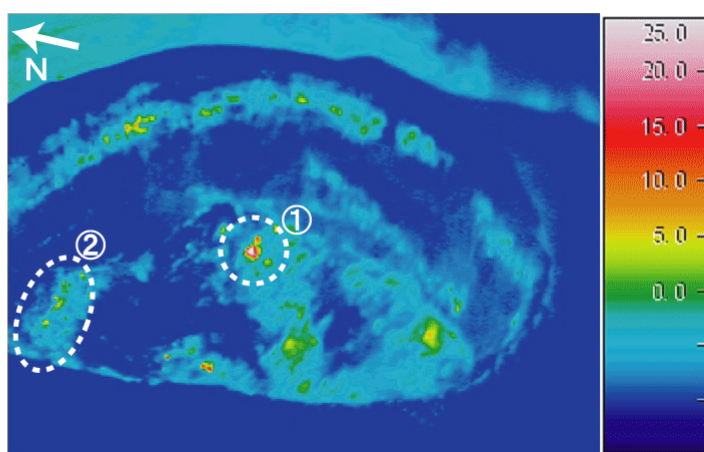


図 2 浅間山 山頂付近の状況（左）と地表面温度分布¹⁾（右）（陸上自衛隊の協力による）

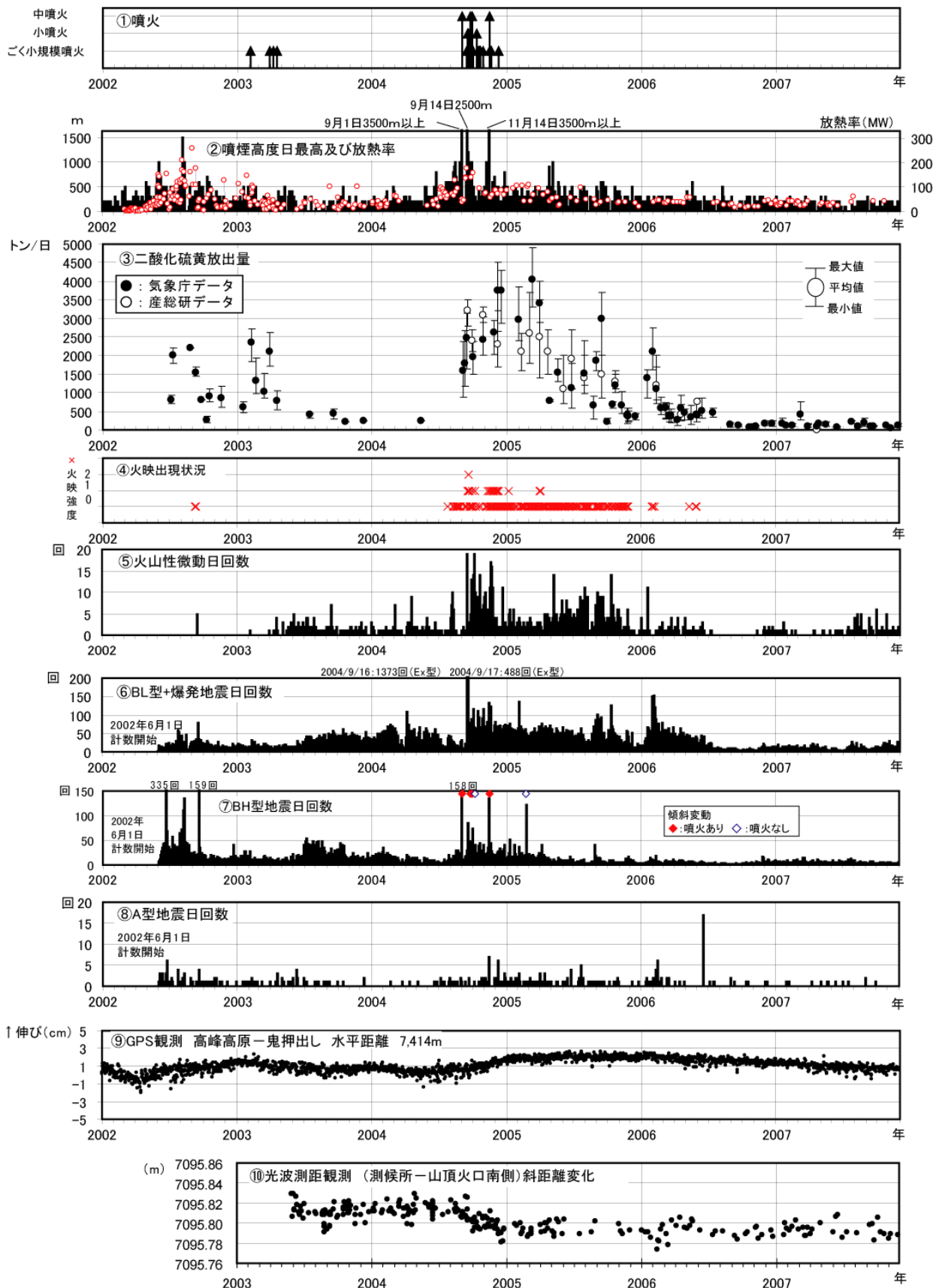


図 3※ 浅間山 最近の火山活動の推移（2002 年 1 月～2007 年 11 月）

- ③ 産業技術総合研究所による観測結果（産総研データ）が含まれています。
- ④ 脚注 6) を参照。
- ⑥⑦⑧ 地震の種類別（図 6 参照）に計数を開始した 2002 年 6 月 1 日からのデータを掲載。

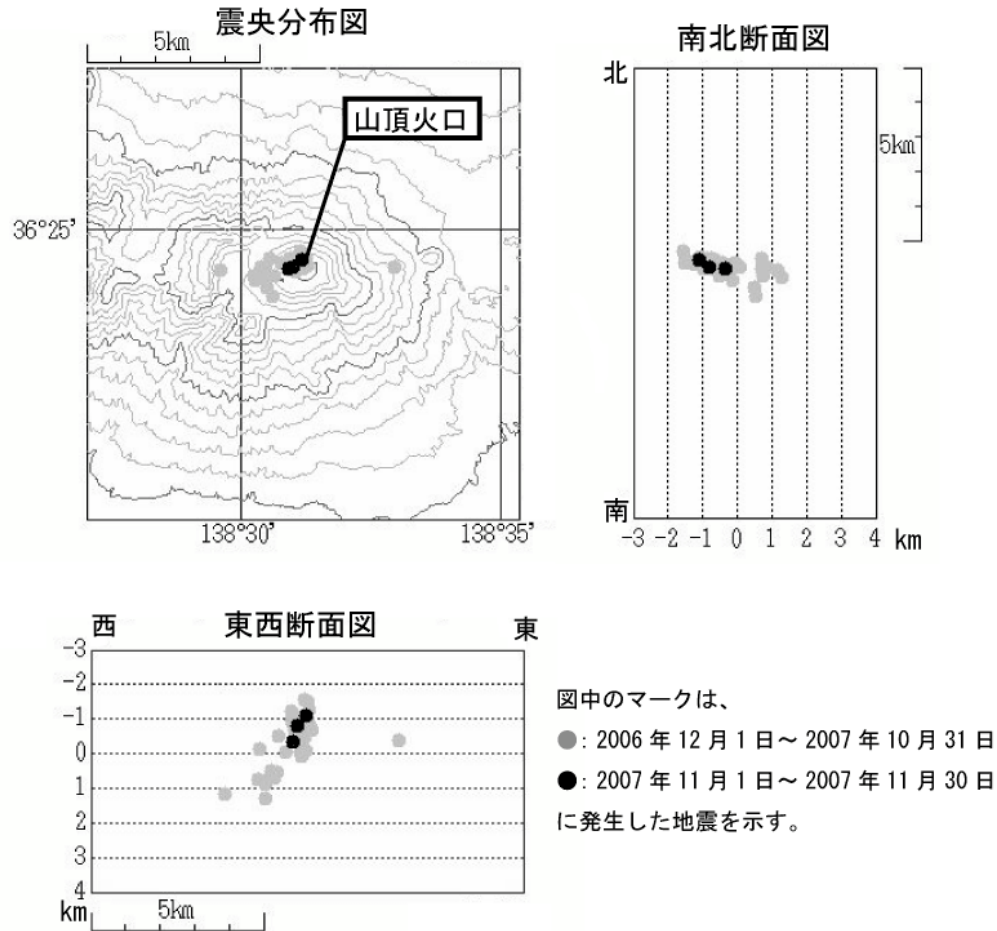


図 4※ 浅間山 火山性地震の震源分布（2006 年 12 月 1 日～2007 年 11 月 30 日）

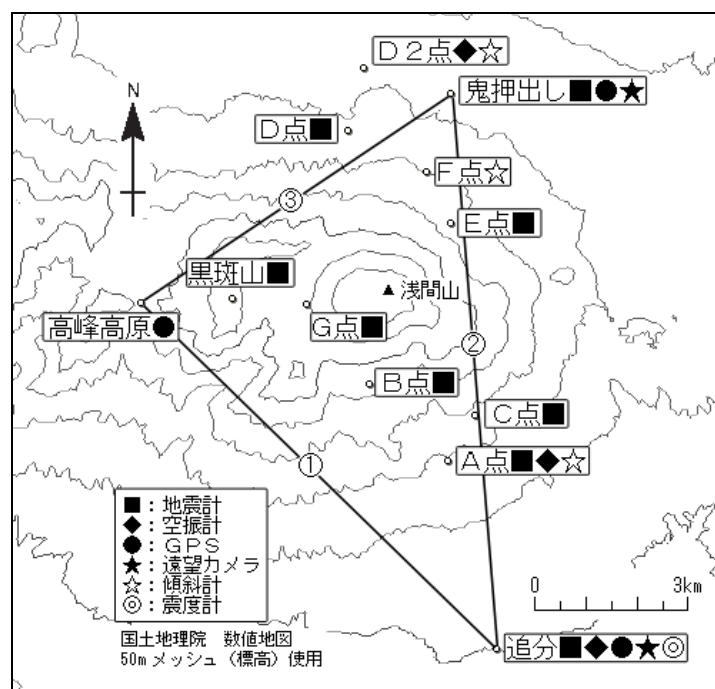


図 5 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS 基線③は図 3 の⑨に対応しています。

表 1※ 浅間山 2007 年 11 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数 4)						微動回数	噴煙の状況 5)		火映強度 6)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		日最高(m)	噴煙量		
1日	0	0	5	12	0	0	17	0	100	1	-	
2日	0	0	0	13	0	0	13	0	×	×	-	
3日	0	0	1	29	0	0	30	1	200	1	-	
4日	0	0	1	11	0	0	12	0	×	×	-	
5日	0	0	2	9	0	0	11	0	×	×	-	
6日	0	0	3	7	0	0	10	0	100	1	-	
7日	0	0	5	9	0	0	14	0	100	1	-	
8日	0	0	2	14	0	0	16	1	200	1	-	二酸化硫黄放出量:40-80トン/日
9日	0	0	2	9	0	0	11	0	200	1	-	
10日	0	0	4	17	0	0	21	0	×	×	×	
11日	0	0	4	4	0	0	8	0	×	×	-	
12日	0	0	1	6	0	0	7	0	×	×	×	
13日	0	0	2	8	0	0	10	2	×	×	-	
14日	0	0	0	8	0	0	8	1	100	1	-	
15日	0	0	1	10	0	0	11	0	100	1	-	
16日	0	0	3	14	0	0	17	0	100	1	-	
17日	0	0	3	9	0	0	12	0	100	1	-	
18日	0	0	4	9	0	0	13	0	×	×	×	
19日	0	0	3	7	0	0	10	0	100	1	×	
20日	0	0	3	10	0	0	13	0	×	×	×	
21日	0	0	1	6	0	0	7	0	100	1	×	
22日	0	0	0	4	0	0	4	0	×	×	×	
23日	0	0	1	8	0	0	9	1	100	1	-	
24日	0	0	1	14	0	0	15	0	100	1	-	
25日	0	0	3	26	0	0	29	1	200	1	-	
26日	0	0	1	27	0	0	28	1	100	1	-	二酸化硫黄放出量:100-200トン/日
27日	0	0	1	12	0	0	13	1	100	1	-	
28日	0	0	1	15	0	0	16	2	100	1	-	
29日	0	0	5	17	0	0	22	2	×	×	×	
30日	0	0	3	15	0	0	18	1	×	×	×	
合計	0	0	66	359	0	0	425	14				

4) 火山性地震の計数基準はB点で最大振幅 $0.1 \mu\text{m}$ 以上、S-P時間3秒以内です。
火山性地震の種類は以下のとおりです。

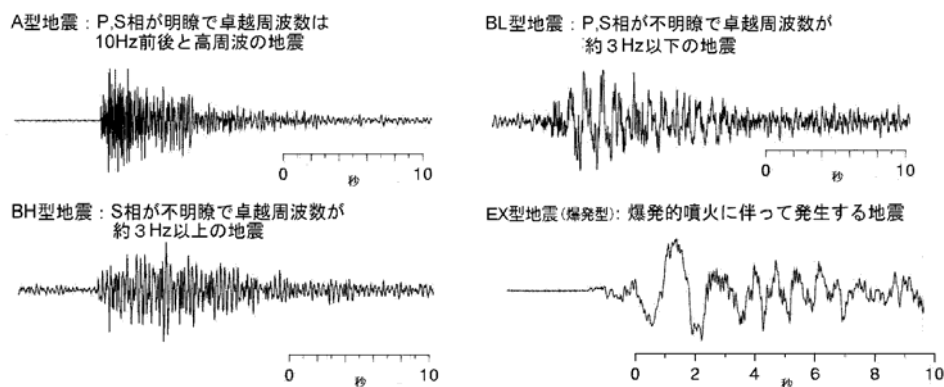


図6 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

5) 噴煙高度と噴煙量は定時観測（09時・15時）の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

- 1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
7：噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

6) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

- 0：肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
-：火映なし ×：視程不良（終日観測できなかった場合）